# プロジェクトニュース

## シエラレオネ　地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト

「マラリアにも負けず」号

**2011 年 12 月 22 日 (Vol.23)**

目次


はじめに

**1.** 現場活動の実況中継

実況中継 1.　県議会エンジニア 島へ渡る

実況中継 2.　マラリアにも負けず、円滑な調達を

シエラレオネ

プロジェクト対象県


**2.**　第 2 回　カウンターパートから見たプロジェクト：　ポートロコ県エンジニアハッサン氏

3.　プロジェクトの進捗報告

**3.1**　県開発モデル構築：フィーダー道路パイロットプロジェクト

**3.2**　村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト

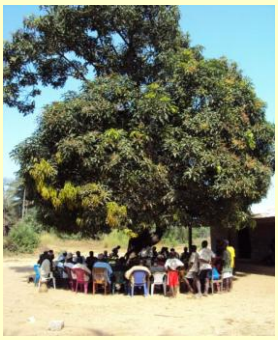
4.　コラム：シエラのチカラ

**4.1**　奥が深い　ミスカンビア

**4.2**　パラマウントチーフ就任式　－あの感動をあなたにも－

**5.**　コラム：ごっつあんです、シエラレオネ！

第 **17** 話　幻のシーフードラーメン

＊プロジェクト **HP** にもアクセスください：**http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html**

## はじめに

今年もサハラ砂漠から細かな砂塵が飛ぶ「ハマターン」の季節が始まりました。この間、太陽はぼやけ、朝晩は涼しくなります。窓を開けていると、机の上にうっすらと砂埃がたまるのがわかります。

ハマターンは年末が近づいていることも伝えてくれます。2011 年は CDCD プロジェクトの活動が定着し、シエラレオネの地方行政関係者の意識の変化、積極的な姿勢の芽生えが見られた年と言えます。その基礎になっているのは、プロジェクト専門家がじっくり育てたシエラレオネ関係者との信頼関係です。これは短期間で成し遂げられるものではありません。

本プロジェクトの活動は県議会職員や本省職員の本来業務の一環です。しかし、彼らが事務所にいない、いてもプロジェクトの活動に関わらない、という状況もありました。しかし、行政職員がより献身的かつ積極的に業務に取り組む姿を見ると感動します。この感動の回数が多いのも本プロジェクトの特徴かもしれません。

誰に対しても「できないこと」ではなく、「できるようになったこと」に目を向けて接していくと、徐々に自然と長所に目が向くようになるものでしょうか。長所を伸ばすことの大切さを改めて感じます。

今年は、32 のコミュニティ開発パイロット事業を実施し、ワード委員会のパフォーマンスを評価して、モデルワードを選びました。これも苦労の多いプロセスでした。フィーダー道路改修プロジェクトでは、県議会と県道路事務所が積極的に協力する姿勢が見られ、プロジェクトを引っ張ってくれています。これも専門家の働きかけの賜物です。

地方行政と住民代表者が協働して地元住民の声と県開発計画のバランスをとり、開発事業に尽力したインパクトとして、地域のフィーダー道路や小学校・井戸などが改修され、市場が整備されるなど地元住民の社会経済基盤が改善されています。

今年に入りシエラレオネ政府は、地方自治法や村落開発ポリシーなど、村落開発や地方行政に関係する法やポリシーを策定あるいは改訂し、新しい国の方向性を打ち出しています。この動きにプロジェクトからも助言や策定支援することが出来ました。現場の経験を国の方針作りに役立てることが出来たわけです。本省と共催して、全国県・村落開発フォーラムを開いて、シエラレオネ全国の行政関係者と共に本プロジェクトの経験や教訓を共有することもできました。

首都フリータウンのランドマーク　コットンツリー

来年以降も「プロジェクト終了後に、CDCD プロジェクトで学んだことをシエラレオネの人々が継続して活用していく姿」を想像し、協力を続けてまいります。

皆様にとって来年が充実した年になりますよう、プロジェクト専門家一同心よりお祈り申しあげます。

(平林リーダー)

**********

## １．現場活動の実況中継

### 実況中継 1.　県議会のエンジニア　島へ渡る　－モデルワードプロジェクト－

現場へ小船で向かうジボ氏。（写真左）

カンビア県議会のワークスエンジニアであるジボ氏は、モデルワードプロジェクトでも引っ張りだこです。エンジニアとしては駆け出しですが、一生懸命に業務に取り組む姿勢が評価されているのか、県議会首席行政官からも信頼があるようです。今回は、そんな彼と共に出かけた現地調査からの実況中継です。彼と初めて調査に出る私は、彼と同じくハラハラ・ドキドキしました。

行き先は、河口の町とその先に浮かぶ島です。プロジェクトの選考に関わる技術的な報告をするための業務です。のんびり屋さんのジボ氏のテンションを上げるため、プロジェクト雇用のナショナルスタッフが車両での移動時から通り過ぎる村の名称、ＧＰＳデータや時間などをノートに黙々と書き込み、プロ魂を見せつけます。ジボ氏も負けじとデータを取っています。

小学校建設予定地で寸法を測る

河口では予約をしていた頼りない小型エンジンの小船で島を目指しますが、泳げないジボ氏は慎重に救命胴衣を身に着けます。船旅 40 分後に到着した広大な泥の田んぼに囲まれた島では、島民全員が迎えに出てきます。大きく水面に迫り出したマングローブの枝に登っている人は、こっそり用を足しているところでしょうか。船上から丸見えのトイレから、適切な衛生設備のニーズも伺い知れます。

住民との協議風景

ジボ氏とプロジェクトスタッフは手際よく、小学校建設に必要な石や砂などの入手可能性を調査します。ここで、難問にぶち当たります。限られた土地や石などの資源を巡って、小さな島では所有権が曖昧なようです。「小学校の建設に当たっては、コミュニティの同意だけではなく、所有者或いは地域の有力者からの同意書が必要です。」と住民代表らに力説するジボ氏の姿から、“行政のエンジニア”の姿を垣間見ることができました。

河口の町では、建設途中で放置されたコミュニティ・センター予定地を調査します。プロジェクト・エンジニアからの採寸の指示に従って、寸法を測る地元の大工さんの近くに寄って真剣な眼差しで数値を読み取っています。彼の“動くエンジニア”の姿から、県議会を通じた地域開発の明るい未来を期待します。

住民との対話では、空腹にも負けず自信を持って座っているジボ氏の姿が印象的でした。県議会の限られた予算では、行政エンジニアが経験を積む機会は多くありません。“現場で活躍する真の行政エンジニア”になろうとするジボ氏を、これからも応援していきたい、と思います。

佐藤専門家（村落開発担当）

**********

**実況中継 2.　マラリアにも負けず、円滑な調達を－県開発モデル構築：フィーダー道路改修事業－**

フィーダー道路改修プロジェクトは、12 月の師走に前半の山場である施工業者の選定となりました。ここは各県に一人ずつ配置されている調達官の出番です。

カンビア県の開札で応札社名を読み上げる県議会調達官（右から 3 番目）。開札プロセスを指導する宿谷専門家（右から 4 番目）

彼らは、シエラレオネの調達法を熟知し、県議会における物品から業者等の調達を管理する忙しい役割です。業者選定は、開札、評価委員会による応札書の評価、調達委員会による評価承認の手順を進めますが、調達官は秘書として裏方に徹します。プロジェクト専門家も彼らにシエラレオネの調達に関して教わることが多いです。

今年の業者選定ですが、昨年に続いて 2 回目ですから県議会調達官らの十分な実力は分かっています。今年はできる限り手を出さないように、助言に徹しました。

まず、カンビア県の開札ですが、調達官のジャロ氏が主任行政官、エンジニア等と協調し、つつがなく終えました。**昨年はマラリアをおして出席し、何とか乗り切ったジャロ氏です。**

次はポートロコ県です。調達官のファボ氏は事前に準備を着々と進めていました。しかし当日、応札書の書類を読み上げる姿がたどたどしく、書類チェックリストに間違いがあったり、確認のため出席者に書類を見せるのを忘れたりと、昨年より仕事が後退している感じでした。聞けば、**マラリアでここ数日調子が悪かったとのこと。それでも何とか終了するあたりは、さすがは慣れてはいます。**

ポートロコ県の開札で応札書を出席者に見せる県議会調達官（右から 2 番目）。開札プロセスを指導する宿谷専門家（右から 3 番目）

その後、評価委員会では評価レポートの作成、調達委員会では議事録の作成、その後の契約書の作成と大忙しでした。

さて、調達についてはエキスパートの調達官ですが、昨年の業務の教訓として調達のプロセスについて多少不透明なところがありました。例えば、応札書の評価手順やその基準等です。今回、開札過程に入る前にそれをクリアにして分かりやすくするように話し合

いました。フローの作成や評価シートの導入です。彼らもエキスパートですので、喧々諤々話し合いましたが、最後は納得し、調達の終了後は評価手順がわかりやすくなったと好評でした。

今の彼らの懸念は、調達手順への政治的な介入と人手の不足です。非常にセンシティブな問題ですが、これからも真剣に取り組む彼らの助けになればと思います。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

**********

**2. 第 2 回　カウンターパートから見たプロジェクト　－ポートロコ県議会エンジニア　ハッサン氏－**

CDCD プロジェクトは、カウンターパートの地域開発管理にかかる能力向上を目的としています。このプロジェクトに従事している人間は、誰からもうらやましがられます。是非、他のドナーや県議会も CDCD プロジェクトのコンセプトを真似してほしいと思っています。CDCD プロジェクトは単純にカウンターパートの能力向上だけでなく、地域開発に従事する上で必要な住民や県議会の自主性、自立心、また、祖国愛を育てあげ、シエラレオネの地域開発の効果を最大限に発揮できる仕組みになっています。

今年の 9～10 月にかけて、JICA の土木行政の研修で札幌を訪れました。その印象も話したいと思います。研修のプログラム、コンセプトやコーディネーションはとてもよく、愛情あふれるおもてなし、そして美しい文化と、関わる人々は皆素晴らしかったです。

事務所で業務に励むハッサン氏。

研修では、日本の土木行政の考え方、知識を自分たちの国で共有できるように教えてくれました。それは、地域開発に関わり、様々な困難を抱える人々の持続的な能力向上と活動を活性化させるために非常に有効でした。また、中央と地方行政が協調して効率的・効果的に業務にあたっていること、研修においても JICA が自主性を保ちつつ、行政と協調して研修の成功に寄与しているところも印象的でした。このように整備された研修環境下で、自分の研修へのあふれる熱意は増し、非常に重要な研修に集中できました。

現場で熱心に指導するハッサン氏（左から 2 番目）。

将来は、県議会のエンジニアとして、今の県議会の仲間たちと共に、熱き思いを持って現在の仕事にもっと注力したいです。さらには、県議会議長やシエラレオネ政府によってもたらされる強力なリーダーシップをもって、県議会の住民の人々のための地域開発に従事していきたいと考えています。

[専門家コメント]　ハッサン氏はプロジェクト当初、多少コンセプトに対して戸惑いがみられましたが、現在は完全にプロジェクトの理念を理解し、熱い思いを胸に県議会の中心的人物として活躍しています。時とし

て、プロジェクトの内容について議論になりますが、それは彼のプロジェクト、ポートロコ県、しいてはシエラレオネへの深い愛情によるものと理解しています。これからも共に切磋琢磨していける存在です。

＊記事掲載につきましてはご本人の了解を得ております。

**********

## 3：プロジェクトの進捗

| 2011 年度実施予定の主な事業 | | |
|---|---|---|
| 主な活動 | 予定 | 進捗状況 |
| 村落開発ポリシー策定支援。関連法・ポリシー策定への助言。 | 2011 年に村落開発ポリシー案を策定。閣議で承認を得て、全国へ普及。 | 閣議で協議中。 |
| 県・村落開発ハンドブックの草案 | 2011 年 5 月までに目次案を作成。2011 年 6 月からハンドブックの草案作業を行う。 | 第 1 回ハンドブック委員会会議開催。草案を進める。 |
| 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクトフェーズ 1 | カンビア県 4 件、ポートロコ県 2 件 (社会・経済基盤整備) のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。 | ワードごとで候補事業のとりまとめ作業中。 |
| 県開発モデル構築：<br><br>パイロットプロジェクト：フィーダー道路・カルバート改修工事 | フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始する事業のモデル案を作成する。<br>主な工事：フェーズ 1 第 2 ターム（2012 年 5 月末まで）<br>カンビア県：フィーダー道路 15.1Km, カルバート 35 箇所<br>ポートロコ県：フィーダー道路 11.8Km, カルバート 35 箇所 | フェーズ 1 第 2 ターム工事の開札、業者選定、工事契約。 |
| 研修事業 | 県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。 | 県議会職員への外部委託研修実施。 |

**********

### 3.1 県開発モデル構築・フィーダー道路パイロットプロジェクト：2 年目の改革

シエラレオネの道路網は状態が悪く脆弱です。特に農村地域の経済・生活を支えるフィーダー道路の整備は急務とされ、道路局と県議会の協調によりプロジェクトが実施されています。フィーダー道路改修プロジェクトでは、これらの業務にかかるカウンターパートの能力向上を目指し、昨年の教訓を生かし、円滑な道路事業の実施を目標としています。

さて、CDCD プロジェクトは県議会共同で、11 月 9 日に両県において、道路改修の業者を選定するために公告をし、12 月 21 日までに業者選定から契約まで行いました。公告から 28 日間おいた 12 月 6-7 日に開札、評価委員会による応札書の評価と推薦業者の選定（評価レポートの作成）、県議会やドナーメンバーによる評価委員会の評価結果の確認と落札者の決定、そして契約書への署名です。

手順や内容はシエラレオネの調達法に則って実施していますが、**昨年の教訓を生かし、透明性の確保を目的として、評価手順等を調達委員会で確認、また、評価のための表と評価基準などを作成しました。**

カンビア県の調達委員会で熱心に議事録を取る調達官（写真左）と平林リーダー（写真右）

開札では、県議会職員と応札者が一堂に会し、応札書の中身の有無と応札価格を確認しました。あくまでも要求された書類が有るかどうかを確認するのみです。その後、日をおいて、応札図書の評価です。評価は、3 人のエンジニア（県議会、道路局、CDCD プロジェクト）によって実施されます。調達官が秘書としてアレンジをします。

昨年は私も評価委員となりましたが、今年はオブザーバーとして評価の過程を見守ることとしました。**評価シートを利用することにより、基準は分かりやすく、第三者に説明しやすくなったと好評でした。**また、昨年はたくさんあった応札書の不備が激減しました。これは、業者への説明が浸透したからかもしれません。ただし、入札価格の計算間違いは相変わらず多く、ひどい業者は再計算した値が元の額と 10 倍違うところもありました。提出前の見直しは必要です。

カンビア県での契約書署名：左から首席行政官、佐藤所長、業者代表者、宿谷専門家、道路事務所エンジニア、調達官

最後は、調達委員会での落札者の承認です。昨年は、評価の過程で応札図書の不備がたくさんあったために評価に苦労し、また、その内容を調達委員会で吟味したため、長時間かかったのですが、今回は事前に評価の過程を確認していたため、結果がすんなりと承認されました。契約書の署名は 12 月 21 日に JICA シエラレオネフィールドオフィスの佐藤所長、県議会首席行政官、業者において、両県議会で実施されました。

ポートロコ県での契約書署名：右から業者代表者、首席行政官、調達官、佐藤所長、宿谷専門家、県エンジニア

今回は昨年の教訓を生かし、調達のプロセスがスムーズに行われ、県議会職員や道路局にも好評でした。まだまだ、調達には政治的な介入が多く、県議会職員を悩ませているところですが、クリアな手順を追求することにより、透明性を確保した調達を今後とも目指す必要があります。また、プロジェクトで一緒に調達手順を確認することにより、彼ら自身の調達のスキルも上がったようでした。

さて、プロジェクトも年末から年始にかけて工事の開始に入ります。カウンターパートは休みなくプロジェクトに従事します。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

**********

## 3.2.　村落開発モデル構築・モデルワードプロジェクト：県議会と各省県事務所の連携強化

32 ワードを対象としたパイロットプロジェクトでは、ワード委員会のキャパシティ・アセスメントが行われました。その結果に基づいて、モデルワードプロジェクトの対象となる 12 ワードが選出されました。モデルワードプロジェクトフェーズ１では、その内の 6 ワードに対する支援を通じて、県議会と住民代表者が協働し、県開発計画と住民の声をバランスよく反映させた村落開発の事業管理ができるように、能力向上を図っています。

県議会首席行政官へ報告する開発計画官とエンジニア。同席する佐藤専門家（写真左）。

現在閣議に提出されているシエラレオネの村落開発の方向性をまとめた村落開発ポリシー案では、「村開発委員会=Village Development Committee」という村単位のグループを設立し、ワード委員会と住民の間に立って、住民の動員や事業計画を強化する方針を打ち出しています。CDCD プロジェクトではシエラレオネの新しい方針を仮説としてモデルワードプロジェクトの実施計画に取り込み、検証していきます。

フェーズ１では、現在、各ワードで実施するプロジェクト案件の選択作業を関係者が進めているところです。選挙区（ワード）ごとに構成されているワード委員会と各村の村開発委員会(VDC)との橋渡しを無償奉仕で行う Village Training Facilitator (VTF)が各村から選ばれ、県議会職員の主導で簡易ながらもトレーニングを実施しました。県議会は VTF を通じて簡易な村落調査や意向調査を行い、なんとか生データを集めました。

県保健事務所職員と協議する県議会開発計画官。

しかし、ここからが大変です。データ入力作業に手を挙げる正職員がいないのです。それぞれの職務ごとに「オフィサー」の肩書を持つ彼らにとっては、パソコンと長時間睨めっこをすることはどうしても避けたい、しんどい作業に映るようです。そんなカウンタパートが出した答えは、ポートロコ県では「インターン」、カンビア県では「財政部門の秘書」にやってもらう、という方法でした。結局、秘書らにとっても慣れない作業だけに時間もかかり、入力間違いも非常に多く、修正作業に骨を折りました。

出来上がった村ごとの「どの言語を話す人がいて、井戸がいくつあって、乾燥床がなく、既存学校の状態の程度は・・・。彼らの要望は・・・・。地域全体での希望は・・・・」といった基礎情報を眺めながら開発計画担当官は、県全体や地域ごとの開発計画と比較して、事業の優先度や予算の視点から要望の妥当性を検討していきます。

施設を建設しても、将来の運営には各セクター省庁の県事務所のサポートが必須なので、開発計画担当官はそれぞれの事務所を訪問して意見を聞き取ります。**驚いたのは各省庁県事務所の所長たちでした。こ**

れまで県議会は各省庁県事務所に情報提供を一方的に指示するだけだったのですが、村ごとのデータを示しながら県議会職員が説明に来たからです。これまで、「本省の機能を県へ委譲する」ことばかりが強調され、県議会と各省庁の県事務所間の協力・調整が軽視されがちだっただけに、大きな進歩です。

一連の作業からの教訓としては、県議会のリソースの限界を考えれば、全村落調査の必要性は是非が大きく分かれるところです。入力作業も現状では、難しいでしょう。ただ、各村に受け皿の体制ができたことで将来別の開発事業を進めやすくなると期待できること、県議会独自のデータは開発への投資分配を考える際に有用であること、データを持って各省庁県議会事務所と向かい合えば有効な協力体制が築ける可能性があることは県議会職員に理解してもらえたようです。今後は、これらの作業の簡略化と定型化を進めることで、プロジェクトの成果の定着につなげていければと思います。

佐藤専門家（村落開発担当）

**********

## 大好評のコラム：

### 4.1　シエラのチカラ　ー奥が深いミスカンビアー

今年もミスカンビアの季節が到来しました。ミスカンビアの取材は今回で 3 回目になります。これも不思議な縁です。

観客の皆さん

県議会職員が主催者を務めるミスカンビアコンテストは、カンビア県の一大イベントといっても過言ではありません。せっかくの機会なので、ミスカンビアコンテストの目的を主催者に尋ねました。

ミスカンビアコンテストは 2006 年から開催しており、今回で 6 回目を迎えたそうです。女性たちの社会活動を推進するための機会を設けよう、というのが開催のきっかけだったそうです。コンテストの中で様々な衣装審査がありますが、これはコンテストを見に来た女性たちにオフィスやパーティーではどんな装いをするのかを示す場でもあるそうです。

真剣な表情の審査員の皆さん

また、候補者には一律の準備費用を与え、そのお金でコンテストの衣装等の準備をし、限られたお金を有効に活用するというファイナンスに関する経験を積む機会になるそうです。

それだけではありません。衣装審査の合間には若者たちによるダンスパフォーマンスが行われ、日頃の練習の成果を発表する場でもあります。

このミスカンビアコンテストを通して女性だけでなく若者たちを盛り上げ、カンビアの若者グループを活性化することが期待されています。実際のところ、コンテストの観客の多くは若者で、その半数は女性でした。

さて、今回のミスカンビアですが、カンビア県の７つのチーフダムのうち６つのチーフダムから候補者が参加しました。候補者とそれを支えるグループが一丸となり、女王の座を目指します。会場ではそれぞれの応援者たちが候補者に熱い声援を送ります。まさに女同士の火花が散る戦いです。女性がこんなに盛り上がる機会は他にはないと思います。

第６回ミスカンビア

盛り上がる会場とは対照的にピリピリムードの審査員席。候補者が6人いるので審査員は大変です。審査員席では「さっきの候補者は、どこのチーフダムだ？」「候補者がよく見えない。」などという声が飛び交っていました。そして懐中電灯で照らした審査用紙とにらめっこです。仕事の時より真剣な表情です。

真剣勝負の結果には賛否両論がありましたが、コンテスト後もしばらくミスカンビアの話題でもちきりでした。それほど、ミスカンビアというイベントにはインパクトがあるようです。

今回の取材を通じてミスカンビアの奥の深さに触れることが出来ました。このイベントを通じて、将来はカンビアの発展の“チカラ”になる若者たちが、飛躍することを期待します。

（反町専門家）

**********

## 4.2　シエラのチカラ　－パラマウントチーフ就任式：あの感動をあなたにも－

今日は、朝から町全体の様子が変です。伝統的な衣装が目につきます。そうです、今日は、県議会事務所のある地域を治めるチーフダムの長であるパラマウントチーフの就任式です。

パラマウントチーフを長とするチーフダム制は、大英帝国による植民地時代の間接統治に由来します。現在では、チーフダム議会は登録納税人への人頭税等の徴税権を有し、警察とは別の独自の地域治安組織を管轄します。現在、チーフダム制は、2004 年に導入された中央政府―州―県―ワードからなる行政機構と融合するよう、シエラレオネ政府が関連法やポリシーを整備しています。かつては世襲制だったパラマウントチーフも 2009 年チーフダム法が制定され、パラマウントチーフは登録納税人による選挙で選ばれることになりました。とはいえ、候補者は血縁関係者に限られています。

今日の主役、M チーフダムのパラマウントチーフは、これまで地元の NGO で働いており、人望も厚いようです。プロジェクトニュース 11 月号「実況中継 2.」でお伝えした酒場でも、壁の一番上に彼の選挙ポスターが貼ってあります。そこには、「彼に一票を！モットー：農業」と単純明快です。

パラマウントチーフの凱旋。群衆で土ぼこりが舞い上がる

そんな彼が、晴れてパラマウントチーフに選ばれた後、伝統的な儀式を経て、今日正式に地元へ凱旋するのです。地元の学校の生徒たちが走って集まり、沿道を埋め尽くします。県議会事務所関係者は、酒場で事前に盛り上がっています。警察関係者は大きな銃を担いで、治安維持と交通整理に余念がありません。

しばらく勿体ぶった時間が流れます。その後、乗合バイクの大群が、警笛を一斉に鳴らしながら通り過ぎます。子供たちが、手を叩きながら「Welcome! Welcome!」と声を合わせます。大地が震えています。

十数台の四輪駆動車が通ります。私もどこにいるかわからないパラマウントチーフを探して、黒い窓の車両や箱乗りの車両をカメラに収めます。

小さな村の大行進。圧巻です。

そんな私を見ていた県議会職員が、「どこ見てるの？こっちだよ」と肩を叩きました。振り向きざまに見た方向に、金の杖を携え、白衣に包まれたパラマウントチーフがルーフトップから民衆に手を振っています。湧き上がる歓声と群衆の手に挟まれ、シャッターチャンスがありません。慌てたために、ビデオモードになっています。ようやく一枚シャッターを切ると、「おい、君も手を振らないか？」と見知らぬおじさんが声をかけてきます。結局、カメラを片付け、懸命に手を振ります。溢れ出る自信と威厳という表現は正にパラマウントチーフのためにある、と実感しました。

現政権が準備をしている村落開発ポリシーでは、ワード委員会の長をパラマウントチーフとし、県議会議員を書記にする案が出されています。シエラレオネでの村落開発では、住民動員の上で一番欠かせないパートナーが、パラマウントチーフなのです。シエラのチカラを、感じた瞬間でした。

（佐藤専門家）

**********

## 5. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ

### 5.1　第 17 話　ー幻のシーフードラーメンー

３階にあるレストラン

シエラレオネ国内では首都を中心に土木工事などで、沢山の中国建設業関係者が仕事をしています。しかし、なぜかフリータウンにある中華料理屋は店をたたんだり、道路工事で店の一部を取り壊され、閉店になるなどその数は減っていました。しかし、ここにきて中華料理屋さんは新規開店あるいは、オーナーが変わって再開しています。

今回は、今年の６月ごろにフリータウンの中心部にオープンした中華料理屋さんを紹介します。オーナーは香港の方で、レストランのほかにも電話機を販売するなど、複数のビジネスを手がける人だそうです。

チンゲンサイのいためもの（写真左）。豚肉のにんにく炒め（写真右）

お店は、昔のオフィスを改装したものです。このレストランは１階と３階で食事が出来ます。１階は通りに面していて、開放感のあるオープンスペース。入り口横ではショーケースに携帯電話が並べられ、商売をしています。チャイニーズレストランの名前もそれにちなんでか、cititel resraurant といいます。

料理は定番の中華料理あり、肉、野菜、シーフード各種メニューがそろっています。その中でもお勧めはシーフードラーメンです。

シーフードラーメンのはずが、、、麺がない。でもおいしい。

最初にシーフードラーメンを注文したときに出てきたのは、なんと「麺なしシーフードスープ」でした。すぐに店員さんに、「麺だけ後で足してくれない？」と頼みましたが、願いかなわず、、、。気を取り直して、目の前のシーフードスープと向かい合うことにしました。器の中を見ると、シエラレオネで獲れた大きく新鮮なイカやエビが「食べて！」と言わんばかりに並んでいます。いいだしが出たスープは塩加減も丁度いい。麺がなくても堪能できました。

しかし、「やはりラーメンが食べたい」という心の叫びはおさえられず、後日リベンジを兼ねてお店に行きました。再び注文した「幻のシーフードラーメン」は正真正銘のラーメンでした。しかも１人前なのに麺とスープの量が多い。日本のお店で食べるラーメンの倍近い量があるでしょう。食いしん坊にはたまらない一品です。

**ひらしゅらん**の独断と偏見の評価：★★★★☆。シーフードラーメン、是非お試しあれ。

**********

次号へ続く

発行元：シエラレオネ　地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト　編集長　平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートロコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009 年 11 月～2014 年 10 月（5 年間）

対象地域：カンビア県（25 ワード：人口約 30 万人）、ポートロコ県（7 ワード：人口約 9 万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートロコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、佐藤 専門家（村落開発）：2011 年 12 月実績